



日本骨髄バンクの現状（平成 21 年 8 月末現在）

	7 月	8 月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,731	2,941	343,923	438,348
患者登録者数	213	203	2,649	28,349
骨髄移植例数	122	91	-	10,850

■20 歳未満のドナー登録者数

8 月 123 人
合計 10,425 人（17 年 3 月～）

■51 歳以上のドナー登録者数

8 月新規 89 人
延長 223 人
合計 15,742 人（17 年 9 月～）

■8 月の区分別ドナー登録者数：献血ルーム／978 人、献血併行型集団登録会／1,883 人、集団登録会／2 人、その他／78 人

注）数値は速報値のため訂正されることがあります。

1 骨髄バンク推進全国大会・地区普及広報委員研修会の開催

■9 月 12 日（土）、大阪府大東市のサーティホールで「骨髄バンク推進全国大会 おしゃべり音楽会 ハート to ハート」が開催され、あいにくの雨の中、全国から約 750 名の方が参加しました。

第 1 部の式典では来賓のご挨拶に続き、近畿地区のボランティア団体から推薦をいただいた企業・学校等、14 団体に感謝状が贈呈されました。第 2 部のトークショーでは、トークゲストの岡本大東市長、ドナーさん、元患者さん、元大相撲関取で歌手の大至さんに、司会のおちあやこさんとスペシャルゲストの千原せいじさん（千原兄弟）がお話をうかがいました。それぞれの方が人と人が支え合うことの大切さを、ご自身のエピソードを交えて語りました。また、大至さん、OSMゴスペルアンサンブル、大阪桐蔭高等学校吹奏楽部の皆さん、総勢約 230 名が歌と演奏を披露してイベントを盛り上げ、最後は観客も一緒になっての大合唱となりました。また、ロビーでは関西骨髄バンク推進協会、和歌山血液疾患患者家族の会「ひこばえ」、メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン、骨髄移植推進財団の展示パネルが設置され、来場者した皆さんへの広報活動を行ないました。

本大会は大会実行委員の方々や大東市をはじめ、多くの皆さまのご尽力によって開催されました。この場をお借りして、皆さまに厚く御礼申し上げます。

※**大会実行委員会**（敬称略） 委員長：栩本 孝（NPO 法人関西骨髄バンク推進協会）、副委員長：杉本 光世（メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン関西支部）、小中 義之（和歌山血液疾患患者家族の会「ひこばえ」）、阪田 彰勲（滋慶学園 COM グループ大阪スクールオブミュージック専門学校）、白井 幸則（滋賀骨髄献血の和を広げる会）、西村 善美（NPO 法人関西骨髄バンク推進協会）、森 孝道（骨髄献血の和を広げる会）、山村 詔一郎（なら骨髄バンク）

■全国大会開催の当日 10：00 から、大東市の大阪市立生涯学習センターアクロスで「地区普及広報委員研修会」が開催されました。地区普及広報委員、オブザーバー等、約 40 名が参加して、地域の現状についての発表を行ったほか、PBSC T についての理解を深めました。

■全国大会翌日の 9 月 13 日（日）、住道駅前の大東市末広公園で開催された市民まつり会場内で、献血併行型ドナー登録が実施され、24 名のドナー登録がありました。前日の全国大会に参加されて骨髄バンクに関心を持たれ、説明を聞きにこられた方もいらっしゃったそうです。



2 コーディネートの状況と対策について

9月10日に開催された常任理事会でコーディネートの現状と対策について審議されました。本年1～6月における国内患者登録数は995例で前年同期比111%でした。特に50歳以上が416例で同123%と大きく増加しました。移植例数は568例（前年同期537例）、採取件数は566例（同533例）と共に前年同期比106%でした。4月～6月のコーディネート期間については、確認検査行程は25.0日（前年同期24.0日）ドナー選定から骨髄採取までは74.0日（同71.0日）、ドナーコーディネート開始から骨髄採取日までの行程が127.0日（同119.0日）で、いずれも前年に比べて延長しています。特に関東地区のコーディネート期間は前年に比べ11日延長し、主な原因として骨髄採取の受け入れが困難なためと考えられます。

対策案としては下記を考えていますが、今後も短期的・長期的な対策を検討し、コーディネート期間の短縮に向けて努めてまいります。

- 調整医師が不足している地域や骨髄採取の受け入れが困難な認定施設について、引き続き地区代表協力医師等の協力を求め、きめ細かい対応をする。
- 認定施設へのインセンティブのひとつとして、各施設の希望等を伺った上で、非血縁者間骨髄移植採取認定施設としての認定証を発行した（実施済み）。また、日本造血細胞移植学会と協力して、ドナー安全管理料として診療報酬の増額を働きかける（要望済み）。
- 1施設あたりの骨髄採取受け入れ数が違うことについて、その原因を探る。より骨髄採取を受け入れてもらえるような調整のあり方について、移植調整部、ドナーコーディネート部および地区事務局職員間で、各地区で工夫していることなどの意見交換を行う。また、骨髄採取の調整に関してどのような協力体制が取れるか、財団職員と院内コーディネーターとの意見交換を行う。
- 院内コーディネーターが、非血縁ドナーの骨髄採取受け入れ時に院内調整等に協力できるよう、財団から採取施設に対して要請する。
- 医師の研究会などの機会に、理解を求め、骨髄採取受け入れの協力を呼びかける。

3 第2回目、第3回目「PBSC Tに関する委員会」の開催

9月15日および9月13日に第2回目、第3回目の「PBSC Tに関する委員会」が開催されました。

第2回本委員会では、「顆粒球コロニー刺激因子（以下、G-CSF）投与について」と「末梢血幹細胞（以下、PBSC）採取について」が審議されました。G-CSF投与に関する基本的事項（投与回数、投与量、投与する時間、減量・中止の基準、G-CSF投与期間中のドナーのフォローアップ体制等）や、PBSC採取に関する基本的事項（PBSC採取前健康診断、採取の方法、採取のための成分採血（アフレーション）操作、運搬について等）について検討しました。いずれの審議も、ドナーの安全性を重視するとともに、導入時はドナーや施設の事情等を考慮して、慎重に開始することが確認されました。

第3回本委員会では、日本造血細胞移植学会 理事長の小寺良尚先生より、「国内血縁および海外におけるPBSCドナーの有害事象について」および「G-CSFの安全性」等について報告がありました。また、厚生労働科学研究班 代表者の宮村耕一先生より、8月30日に開催された班会議の報告がありました。次いで「PBSCの凍結について」が審議されました。PBSC採取では血管確保の問題や、Poor mobilization*などにより移植に必要な細胞数が採取できない可能性があり、血縁者間



末梢血幹細胞移植（以下、PBSC T）では、採取されたPBSCの細胞数を確認した後、患者が前処置を開始するため、移植までの間、細胞の凍結保存が一般的に行われています。非血縁者間においてPBSCの凍結保存を実施した場合のメリット・デメリットを検討したうえで、移植施設の判断によりPBSCの凍結保存を認めることの可否や、その方法および移植の安全性等について、さらに慎重に審議を継続することとしました。

審議の詳細については、財団ホームページに随時アップされる議事録をご参照ください。

注＊一部の健常人ドナーではPBSC動員の至適条件でも十分なPBSCが採取できない場合がある。これをPoor mobilizationという。

4 骨髄バンク応援イベント

■「第10回 骨髄バンク支援のための 大泉逸郎チャリティーコンサート」

開催日・場所：9月17日（木）、浅草公会堂 問合せ先：オミヤマ企画 TEL 03-3587-0380

■骨髄バンクチャリティ「フレンドシップコンサート 銀座・新橋歌謡祭 秋」

開催日・場所：9月15日（火）～23日（水）、銀座博品館劇場

問合せ先：（株）ドラマ・ステーションJAPAN TEL 03-5427-1822

■骨髄バンクチャリティ「第41回オープントーナメント 全日本空手道選手権大会」

開催日・場所：10月3日（土）～4日（日）、東京体育館 ※10月4日はドナー登録会を実施

問合せ先：サンライズプロモーション東京 TEL 0570-00-3337

5 政府広報番組で骨髄バンクが取り上げられます

10月は「骨髄バンク推進月間」ですが、これに合わせて政府広報番組で骨髄バンクが取り上げられます。テレビが2件とラジオが1件で、いずれも骨髄バンクを知ってもらい、骨髄ドナーを増やすことがテーマです。詳しくはそれぞれのホームページをご覧ください。

<テレビ> ■「ご存じですか」（10月9日放送）

<http://www.gov-online.go.jp/pr/media/tv/gozo/index.html>

■「中西哲生の Just Japan」（10月10日放送他）

<http://www.gov-online.go.jp/pr/media/tv/just/index.html>

<ラジオ> ■「栗村智の HAPPY！ニッポン」（10月24日放送）

<http://www.gov-online.go.jp/pr/media/radio/happy/index.html>

6 訃報

8月30日、当財団の常任理事である町田圭治氏（株式会社ケーティービー常務取締役）が心筋梗塞のためお亡くなりになりました（享年70才）。

町田氏は常任理事として、長年に渡って財団の運営に多大な貢献をされました。慎んでお悔やみを申し上げますと共に、心よりご冥福をお祈りいたします。

なお葬儀に関しましては故人のご遺志とご家族のご意向により、ご家族だけで執り行われました。



7 財団の会議開催予定

傍聴をご希望の方は、事前に財団事務局総務部までお申し込みください。

	公開・非公開	開催予定
常任理事会	公開・一部非公開	10月8日(木) 17:30～ 廣瀬第1ビル2階会議室
医療委員会	公開・一部非公開	9月26日(土) 14:30～ 廣瀬第1ビル2階会議室
ドナー安全委員会	非公開	10月17日(土) 12:30～ 廣瀬第2ビル地下会議室
PBSCTに関する委員会	公開	10月17日(土) 16:00～ 廣瀬第1ビル2階会議室

ドナーコーディネーター関係者のコーナー

以下は、調整医師およびコーディネーターの皆さまを対象としています。

8 新型インフルエンザA (H1N1) に関する対応について (続報)

今般流行している新型インフルエンザは、大多数が免疫を獲得していないため感染性が高いですが、ウイルスの特性としては現在のところ強毒性はみられず、季節性インフルエンザウイルスとほぼ同等であり、通常の季節性インフルエンザと同様な症状とみるのが妥当であると考えられます。また、新型インフルエンザの感染予防についても、季節性インフルエンザと同様に対処する事が適当です。ただし、感染力が高いため、マスクの着用等の感染防止策を講じるとともに、集団感染による業務への支障をできる限り防止することが必要です。職員・コーディネーター本人およびその家族が新型またはA型インフルエンザに罹患した場合の対応方針を決めるとともに、中央・地区事務局での業務継続計画の策定、実施を検討しています。

また、財団から厚生労働省に対して、骨髄移植患者への新型インフルエンザウイルス感染を防ぎ、患者の安全を守るため、骨髄ドナー、コーディネーターおよび財団職員に対して、新型インフルエンザワクチン接種を優先的に実施していただくことについて、要望書を提出しました。併せて、厚生労働省新型インフルエンザ対策本部事務局から「新型インフルエンザワクチン (A / H1N1) の接種について (素案)」についてパブリックコメントの募集がなされていたので、同様の意見を提出しました。

9 コーディネーターへの季節性インフルエンザ予防接種費用の補助について

ドナーと直接接触するコーディネーターへの季節性インフルエンザの感染を予防し、インフルエンザが原因のコーディネーターの遅延防止のために、コーディネーターが受けるインフルエンザ予防接種の費用を財団が補助することが9月10日の常任理事会で審議、決定されました。

予防接種はコーディネーターの希望者を対象とし、その費用を全額補助するものです。補助対象期間は10月1日～12月31日です。詳細については別紙をご参照ください。なお、新型インフルエンザワクチン接種については接種の可能性を検討しています。